

4 地域別構想

4－1 地域区分

（１）地域別構想の目的

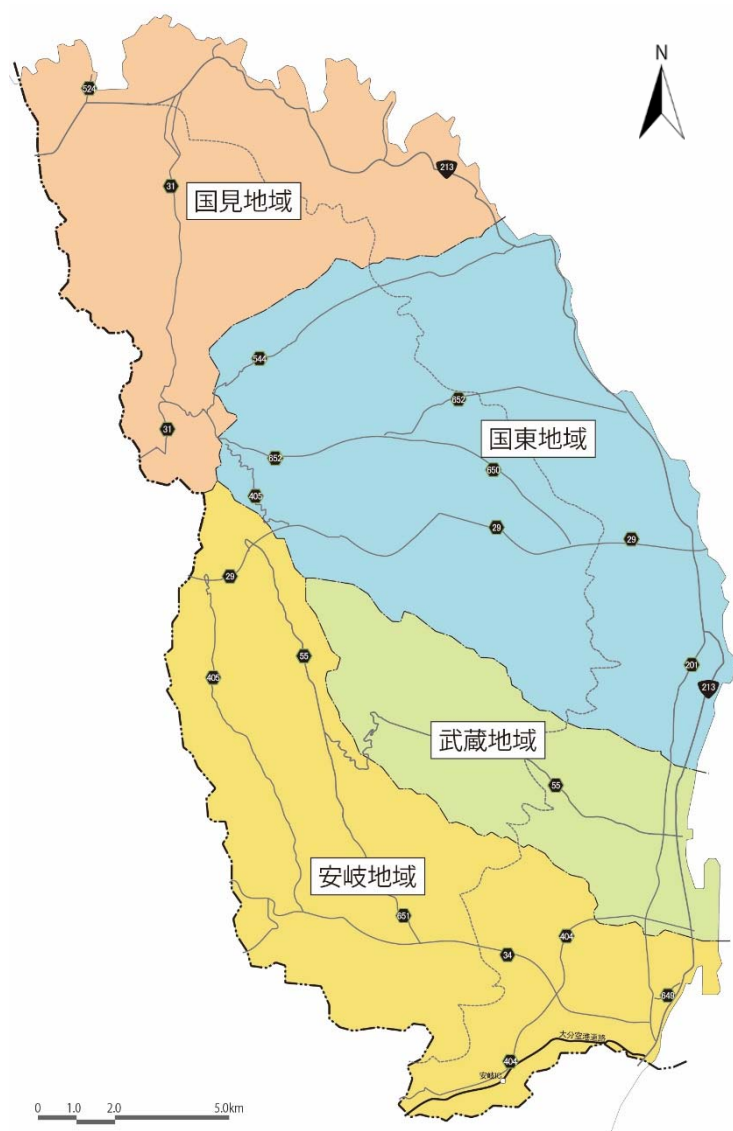
地域別構想は、市民にとって身近な地域レベルでのまちづくり方針を示すことにより、まちづくりに対する理解や関心を深めていただくとともに、身近な地域の課題や将来像を共有化することによって市民がまちづくりに主体的に関わっていただくことを目的とします。

（２）地域区分

地域区分は、市民の日常的な生活圏や歴史的な経緯、市民のコミュニティの繋がりなどを考慮して設定します。

本市においては、大分空港の開港によって旧武蔵町と旧安岐町の市街地が一体化し、同じ生活圏を形成していますが、これまでの歴史的な経緯や地域特性、地域コミュニティなどを考慮すると、旧町のそれぞれの地域特性や魅力に応じたまちづくりを進めることが望ましいと考え、旧4町の行政区を元に「国見地域」「国東地域」「武蔵地域」「安岐地域」の4地域に区分します。

■地域区分図



4-2 国見地域まちづくり構想

(1) 国見地域の課題

① 国見地域の特性

地域の概要	・市の北部に位置し、面積は 7,260ha (72.60km²)、人口は 4,344 人 (平成 27 年) で、それぞれ市全体の 23%、15%、全域が都市計画区域外 ・両子山系から放射状に伸びる尾根筋が海岸近くまで達し、尾根筋に挟まれた河川の両岸に集落や農地が形成 ・地区公民館は、竹田津、伊美、熊毛の 3 地区 ・公共施設は、伊美地区に市役所総合支所、文化施設などの官公庁が立地し、伊美地区に小・中学校、高等学校、竹田津地区、熊毛地区にはそれぞれ小学校が立地 ・交通拠点として竹田津港 (周防灘フェリー発着)、伊美港 (姫島フェリー発着) ・森林・里山ゾーンに多くの寺院や神社のほか、温泉地や森林公園、多数の古墳や遺跡が分布、歴史や文化、レクリエーションの資源が豊富 ・沿岸部には、海水浴場やキャンプ場、道の駅のほか、ペトロ・カスイ岐部神父記念公園などが分布 ・伊美地区にはアート・工芸が集積する「くにみギャラリー通り」として特徴ある地域形成が進む ・クヌギ林とため池がつなぐ国東半島宇佐地域の農林水産業システムが世界農業遺産に認定
人口構造	・平成 27 年の人口は 4,344 人で、平成 17 年からの 10 年間に約 905 人 (17%) が減少 ・高齢化率は 52% で、市の平均を 12 ポイント上回り、平成 17 年から 9 ポイント上昇 ・平成 22 年から平成 27 年にかけて、老年人口と生産年齢人口 (15~64 歳) が逆転、老年人口が 12 ポイント上回る
産業構造	・地域で働く従業者は 2,034 人で、第三次産業が 55% を占めるが、第一次産業が 24% で市内では相対的に割合が高い ・伊美地区に地域のほぼ半分の従業者が集中し、卸小売やその他の生活サービス、教育、医療福祉等の従業者が集中 ・竹田津地区は港湾があることから運輸の従業者が多い
土地利用	・地域の 69% を森林が占め、農地は 23%、宅地、その他等は 8% ・海岸線近くまで尾根筋が迫り、平地は谷筋から流れる河川の両岸に形成された部分に限られる
道路・交通	・地域北部の海岸線に沿って国道 213 号が連絡し、海岸線と内陸部、森林・里山ゾーンを結ぶ幹線として県道山香国見線が南北を連絡 ・市道オレンジロードが、国道に平行して内陸部を連絡 ・海上交通は、竹田津港から周防灘フェリーが山口県周南市を一日 5 便運航 (片道) ・伊美港からは、姫島村が運営する姫島フェリーが一日 12 便 (片道) 運航 ・バス交通は、国東バスターミナルと伊美を結ぶ路線が片道 8 本/日、宇佐駅と伊美を結ぶ路線が片道 9 本/日が運行 ・地域内のバスは、国道、県道を中心に路線バスが運行され、このほか市で海岸線の市街地と路線バス運行のない集落地を結ぶコミュニティバス・タクシーを運行

総合計画における位置づけ	【アート・工芸・交流ゾーン】 国見地域は、「くにみギャラリー通り」のある地域で、多くの「芸術家」や「工芸家」が移住しており、アート・工芸の中心地となっています。また、平成24年から始まった「国東半島芸術祭」でもギャラリーが整備され、地元住民のギャラリーと併せて「アートギャラリー」の集積地となっています。 さらに、「道の駅くにみ」や「くにみ海浜公園」、「国見B&G海洋センター」「国見生涯学習センターみんなかん」、「竹田津港」などが立地し、北部地域の観光・文化施設の集積地にもなっています。 また、本市北部地域の振興に資するため、新しい国東の魅力である「アート・工芸」と従来の観光・文化関連施設を連携させた官民一体となった取り組みを検討・推進する地域となっています。 【第一次産業を中心にした悠久の歴史ゾーン】 本市の多くを占める内陸部の農村地域は、自然や文化を享受しながら生活している地域で、悠久の歴史や文化が引き継がれています。 まちづくり協議会やNPO 法人との協働によって移住・定住者が多い地域であり、「グリーンツーリズム（農家民泊）」にも積極的に取り組み、都市との交流事業が盛んに行われています。 今後は、社会福祉政策や第一次産業政策、移住・定住政策と連携して、自然豊かな国東の文化や景観を未来へつなぐ地域としての振興を図る必要があります。 さらに、「第一次産業関連産業」、「コンテンツ産業」、「クリエイティブ産業」、「学校法人」、「個人のアーティスト」等の誘致を積極的に推進する地域とする必要があります。
--------------	---

②国見地域のまちづくりの課題

【利用しやすい地域拠点、地区拠点の形成】

- 伊美地区における地域拠点の形成に向けた都市機能の強化、海浜公園等との連携
- 竹田津、熊毛地区における日常的な地域サービス機能の維持・確保

【地域の個性と魅力の発信】

- アート・工芸ゾーンの育成・支援
- 自然、歴史、文化、景観資源の保全と活用

【広域連携の強化】

- 地域拠点と都市拠点及び豊後高田市、山口県（周南市）、姫島村等との連携強化
- 骨格道路網の形成

【田園・集落の生活環境の維持】

- 地域コミュニティの維持
- 公共交通の維持

【多様な自然、歴史資源を活かした地域形成】

- 両子山一帯から旧千燈寺跡・不動山一帯にかけての多様な資源の保全、活用による個性ある地域の形成

【農林漁業の活性化】

- 地域特性を活かした農林漁業の活性化
- 世界農業遺産の生産システムの保全と学習機会の確保

【災害からの安全性の確保】

- 土砂災害、河川の浸水、津波等の災害からの安全性の確保

(2) 国見地域のまちづくり方針

① 目指すべき地域の姿

アート・工芸などの独創性と歴史・文化・自然が調和した

北の玄関口となる活力ある田園居住地域を目指す

② まちづくりの基本目標

○ 来訪者に魅力と個性を印象づける地域づくり

- ・アート、工芸ゾーン等の海岸部と温泉を含む旧千燈寺跡・不動山一帯の観光ゾーンを一帯の歴史文化交流拠点として各資源の保全整備やアクセスの整備
- ・海岸部の優れた自然資源と景観要素を活かした魅力ある地域の創出

○ 広域的な連携を支える交通基盤づくり

- ・竹田津港、伊美港の港湾拠点機能の強化や国見地域と他の地域を結ぶ交通軸の強化を図り、人やモノの広域的な流動の活性化

○ 持続可能な暮らしを支える地域づくり

- ・地域全体において、日常的な生活、生産活動を維持するため、公共交通の維持や地域コミュニティ支援機能の充実

○ 誇りある産業活動が営まれる地域づくり

- ・世界農業遺産に指定された農林水産業システムをシンボルとした生産性の高い農林業の実現
- ・安定した漁業生産の確保と漁村集落の維持

○ 災害に強い地域づくり

- ・土砂崩れ、土石流や河川の氾濫、高潮、津波等の地域ごとの災害特性に対する防災性の向上

③ まちづくりの方針

【拠点形成・土地利用】

- ・国見地域拠点では、ギャラリー通りの賑わいを維持するため、アート、工芸等をテーマとした独創性のある活性化施策を展開し、来街者が楽しめる商業地の形成を進めます。
- ・温泉を含む旧千燈寺跡・不動山一帯やペトロ・カスイ岐部神父記念公園一帯については、歴史文化交流拠点として、各資源の保全・活用を図るとともに、両子山系一帯や各拠点とのアクセス性の向上を図ります。
- ・くにみ海浜公園は、市民の生活に身近な観光レクリエーション拠点としての機能充実を図ります。
- ・竹田津や熊毛などの地区拠点は、集落の維持を図るため、定住促進、公共交通の確保に努めます。

【産業振興】

- ・商業においては、ギャラリー通りの個店の魅力向上及び観光レクリエーション拠点などでの飲食、物販等の充実を図ることで、観光型商業の発展を目指します。
- ・観光面においては、“アート・工芸”の独創性を活かし、豊後高田市の昭和の町と連携した観光振興を進めるとともに、海岸部における姫島の眺望や朝日と夕日を同じ場所で楽しめる地形条件等を活かした新たな観光要素の発掘に努め、滞在時間を向上させるための取組みを進めます。
- ・農林漁業においては、低温菌しいたけ栽培などの農産品の開発研究による地域ブランドの構築を進めるとともに、豊富な農水産品を活かした農林水産加工等の発展を目指します。

【交通施設】

- ・国東半島の海上交通の発着を担う国見地域においては、バス交通やレンタカーなどとの円滑な乗換えを図るための交通結節機能の強化を図ります。
- ・国見地域は、豊後高田市との交通の結びつきが強く、国東都市拠点との交通連携が弱いことから、都市拠点との公共交通の確保を推進します。
- ・国東都市拠点と国見地域拠点の拠点間は、都市活動や経済的な結びつきが弱いことから、道路の機能向上や交通連携の強化を推進します。
- ・既存のサイクリングロードや旧国道トンネルなどを活用し、国東半島を周回できる安全で快適なサイクリング環境を整え、サイクリングを通じた地域振興とシーニックバイウェイの推進を図ります。
- ・地域拠点や地区拠点間の公共交通の維持に努め、買物や通院などの日常生活に必要な移動を支援します。

【その他都市施設】

- ・ギャラリー通りを安全に歩行していただくため、賑わいを演出する歩行者空間の創出に努めます。
- ・地域拠点内においては、生活道路や公園などの整備を充実し、良好な市街地環境を形成します。
- ・海岸部の良好な自然資源や景観要素を活かした公園や視点場、沿岸道路の整備に努めます。
- ・田園・集落ゾーンでは、コミュニティの維持に必要な機能の充実に努めます。

【景観形成】

- ・歴史文化交流拠点においては、国東の原風景である山岳景観、森林景観の保全を図るとともに、歴史や文化を感じさせる景観の保全・修復・活用を図ります。
- ・個性のある商店が建ち並ぶギャラリー通りは、通りの景観形成に向けた取組みを進め、歩いて楽しめる歩行者空間の創出に努めます。

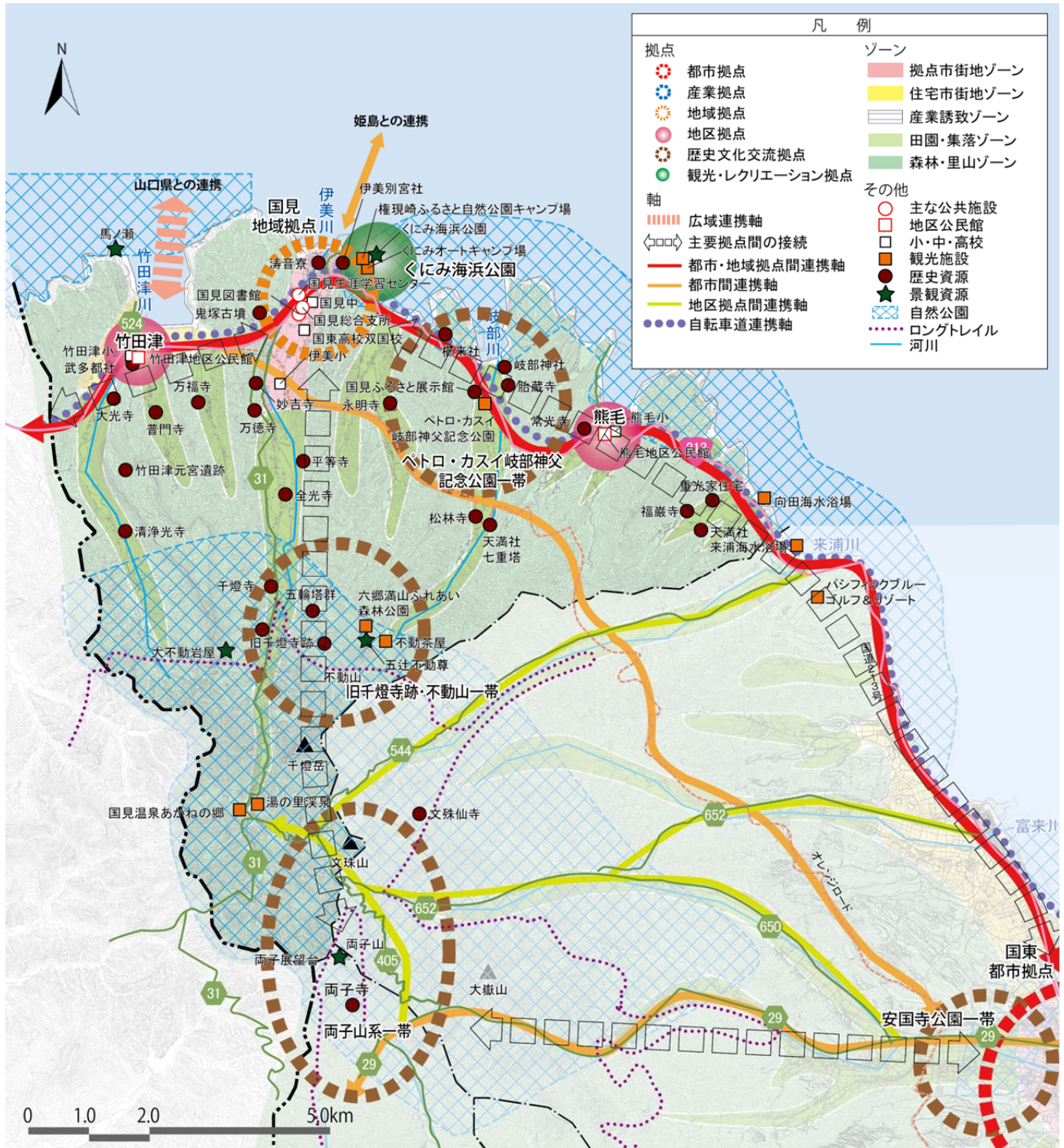
【防災まちづくり】

- ・国見地域拠点から国東都市拠点までの区間に点在する集落は、土砂崩れなどによって国道が寸断された場合には孤立化する恐れがあるため、内陸部における国道を代替できる道路の整備を検討します。
- ・局所的な豪雨による土石流や河川の氾濫を防ぐため、河川の護岸整備やため池の決壊防止対策に努めます。
- ・災害時の避難場所となる小中学校等においては、余裕教室等を活用し、必要に応じて救援物資等

を保存する備蓄倉庫を配置します。

- ・海岸部においては、高潮や津波などの発生に対応するため、避難施設の充実を図るとともに、円滑な避難活動に向けた訓練等に取り組めます。

《国見地域まちづくり方針図》



4－3 国東地域まちづくり構想

(1) 国東地域の課題

①国東地域の特性

地域の概要	・市の中央部に位置し、面積は 11,257ha (112.57km²)、人口は 10,673 人 (平成 27 年) で、それぞれ市全体の 35%、37% ・両子山系から尾根筋が放射状に伸び、尾根筋に挟まれた河川の両岸に集落や農地が形成 ・沿岸部から内陸部にかけては、まとまった平地が拡がり、市街地や大規模集落、農地が形成 ・国東地区の市役所を中心とした 827ha (82.7km²) に都市計画区域が指定され、その他は都市計画区域外 ・地区公民館は、来浦、富来、上国崎、豊崎、国東、旭日の 6 地区 ・公共施設は、国東地区に市役所や文化施設などの主要な官公庁が立地し、国東地区に小・中学校、高等学校、富来地区、小原地区、旭日地区にそれぞれ小学校が立地 ・国東半島の中心商店街の役割を担ってきた鶴川商店街が位置し、隣接してバスターミナルが設置 ・地域全体に多くの寺院や神社のほか古墳や城跡等が分布し、また沿岸部の海水浴場やゴルフ場、道の駅、サイクリングターミナルなど歴史・文化・スポーツ・レクリエーションの資源が多数分布 ・クヌギ林とため池がつなぐ国東半島宇佐地域の農林水産業システムが世界農業遺産に認定
人口構造	・平成 27 年の人口は 10,673 人で、平成 17 年からの 10 年間に 2,358 人 (18%) 減少 ・高齢化率は 43% で市の平均を約 3 ポイント上回り、平成 17 年から 7 ポイント上昇
産業構造	・地域で働く従業者は 5,208 人で、第三次産業が 58% を占める ・国東地域は市の従業者数の 3 分の 2 を占め、商業・業務機能の中心として第三次産業従業者の集積が目立つ ・このほか当地域では富来地区に生活サービスを中心とした従業員が他地区よりも多い
土地利用	・地域の 61% を森林が占め、河川沿いに広がる農地が 29% を占める。宅地、その他等は 10% ・海岸線近くのまとまった平地を含む国東、旭日地区は、農地が 40% 前後、宅地が 10% 前後あるのに対して、来浦、富来、上国崎、豊崎では森林が 70% 前後に達する
道路・交通	・地域東部の海岸線に沿って国道 213 号及び国東地区以南には県道国東安岐線が南北に連絡 ・海岸線と内陸部、森林・里山ゾーンを結ぶ幹線として県道豊後高田国東線、県道文珠山浜線、県道赤根富来浦線、県道下成仏立野線が東西方向に連絡 ・市道オレンジロードが、国道に平行して内陸部を連絡 ・バス交通は、国東バスターミナルと大分空港・杵築・別府・大分間を繋ぐ路線バスが片道 17 本/日で運行し、武蔵地域や安岐地域を経由 ・地域内のバスは、国道、県道を中心に路線バスが運行され、このほか市で海岸線の市街地と路線バス運行のない集落地を結ぶコミュニティバス・タクシーを運行

総合計画における位置づけ	【賑わいのゾーン（市役所周辺地域）】 市役所周辺地域は、国東町の時代から国東地域の中心的な役割を担って来ました。ここは、行政中心の地域として昼間人口の多い地域となっています。 文化施設「アストくにさき」が立地し、近くには公共交通である路線バスのターミナルがあります。 新庁舎建設を機に行政、企業、市民が協働してまちづくりを進め、市の中心地としての賑わい、都市機能の集積、「国東市・国東半島」の入り口としての役割を果たす必要があります。 【文化・スポーツゾーン】 市を代表する文化やスポーツ施設が立地するゾーンで、既存の「アストくにさき」等を中心に、市の文化政策やスポーツ大会等を開催する地域となっています。 この地域は、「賑わいのゾーン」とも連携して、文化・スポーツ関連の政策を計画的に推進する集積ゾーンとしての役割を果たす必要があります。 【第一次産業を中心にした悠久の歴史ゾーン】 本市の多くを占める内陸部の農村地域は、自然や文化を享受しながら生活している地域で、悠久の歴史や文化が引き継がれています。 まちづくり協議会やNPO 法人との協働によって移住・定住者が多い地域であり、「グリーンツーリズム（農家民泊）」にも積極的に取組み、都市との交流事業が盛んに行われています。 今後は、社会福祉政策や第一次産業政策、移住・定住政策と連携して、自然豊かな国東の文化や景観を未来へつなぐ地域としての振興を図る必要があります。 さらに、「第一次産業関連産業」、「コンテンツ産業」、「クリエイティブ産業」、「学校法人」、「個人のアーティスト」等の誘致を積極的に推進する地域とする必要があります。
--------------	---

②国東地域のまちづくりの課題

【都市拠点機能の強化】

- 市役所を中心とした新たな都市拠点の形成
- 商店街の再生による賑わいの創出
- 良好な居住空間の創出

【利用しやすい地域拠点、地区拠点の形成】

- 富来地区を地域北部の生活拠点としての形成
- その他の地区公民館が立地する地区における日常的な生活サービス機能の確保

【生産・業務機能の向上】

- 都市拠点から大分空港にいたる地域への新たな生産業務機能の誘導
- 国道 213 号と県道国東安岐線の沿道における良好な沿道景観の形成

【広域連携の強化】

- 交通結節機能の充実と広域都市間及び拠点間の連携強化
- 骨格道路網の形成

【田園・集落の生活環境の維持】

- 地域コミュニティの維持
- 公共交通の維持

【農林漁業の活性化】

- 地域特性を活かした農林漁業の活性化
- 世界農業遺産の生産システムの保全と学習機会の確保

【災害からの安全性の確保】

- 土砂災害、河川の浸水、津波等の災害からの安全性の確保

(2) 国東地域のまちづくり方針

① 目指すべき地域の姿

賑わいと活力のある都市拠点进行形成し、

歴史に育まれた暮らしやすい快適居住地域を目指す

② まちづくりの基本目標

○ 都市拠点として安全性、利便性と魅力を高めるまちづくり

- ・ 市役所周辺の新たな機能誘導と都市基盤整備
- ・ 快適な商店街の再生やバスターミナルの利便性の向上、安全な歩行者・自転車環境を備えた道路空間の整備
- ・ 海岸部の優れた自然資源と景観要素を活かした魅力ある地域の創出

○ 働く場所の確保に向けた産業ゾーンづくり

- ・ 都市拠点と大分空港周辺を結ぶゾーンへの新たな産業の立地誘導と働く人の定住促進を図る住宅地の確保

○ 持続可能な暮らしを支える地域づくり

- ・ 国東市街地の安全で良質な市街地住環境の実現
- ・ 富来地区をはじめとする地区拠点における生活サービス機能、コミュニティ支援機能の充実
- ・ 田園・集落ゾーンにあっては、定住性や集落維持を考慮した生活環境の実現

○ 誇りある産業活動が営まれる地域づくり

- ・ 世界農業遺産に指定された農林水産業システムをシンボルとした生産性の高い農林業の実現
- ・ 安定した漁業生産の確保と漁村集落の維持

○ 災害に強い地域づくり

- ・ 土砂崩れ、土石流や河川の氾濫、高潮、津波等の地域ごとの災害特性に対する防災性の向上

③ まちづくりの方針

【拠点形成・土地利用】

- ・ 市役所周辺の都市拠点は、市民の健全な営みと産業の適切な発展、都市の賑わいを創出する場として、都市機能の充実や都市施設の整備推進を図ります。
- ・ 市役所周辺の居住性に優れた地区においては、市街地開発事業等の実施を図ることで、良好な市街地の創出を図ります。
- ・ 都市拠点と大分空港周辺を結ぶ空港周辺産業拠点では、適正な産業の立地誘導を図るため、工業団地等の整備推進を図ります。
- ・ 行入ダムや黒津崎海岸は、市民の生活に身近な観光レクリエーション拠点としての機能充実を図

ります。

- ・来浦や富来、上国崎、豊崎などの地区拠点、集落の維持を図るため、定住促進、公共交通の確保に努めます。

【産業振興】

- ・商業においては、市役所周辺への商業集積を進めるとともに、鶴川商店街の活性化を図り、市民の日常の買物や観光客が回遊できる小売・飲食の発展を目指します。
- ・観光面では、多くの観光客が訪れる両子山系一帯や安国寺公園一帯について、歴史資源の維持・充実を図りながら、アクセス性の向上や駐車場の整備などを図り、都市拠点や地域拠点との連携強化によって観光の回遊性を高め、滞在時間の向上や宿泊客の増加を推進します。
- ・世界農業遺産や海岸部の良好な自然資源や景観要素を活かし、公園や視点場、沿岸道路の整備によって新たな観光資源の創出を図ります。
- ・農林水産業は、ひじきやくにさきオイスター、姫だこななどの地域ブランドの更なる発展と研究を進めるとともに、農水産加工や6次産業への発展を推進します。また、小原農業団地や県農林水産研究指導センター等の維持・充実、アクセス強化により農業の活性化を図ります。

【交通施設】

- ・鉄道を有しない本市は、バス交通と自家用車が市民の生活の支えであるため、都市拠点内において、自家用車や自転車、コミュニティバスなどから路線バスに乗り換えが可能なバスターミナルの整備を推進します。
- ・都市拠点の交通結節機能を強化するため、大分市と大分空港とを結ぶバス路線の延伸や、九州の東の玄関口として、国東港から山口県へのフェリー航路の再就航などについての検討を行います。
- ・国東都市拠点と国見地域拠点の拠点間は、都市活動や経済的な結びつきが弱いことから、道路の機能向上や交通連携の強化を推進します。
- ・既存のサイクリングロードや旧国道トンネルなどを活用し、国東半島を周回できる安全で快適なサイクリング環境を整え、サイクリングを通じた地域振興とシーニックバイウェイの推進を図ります。
- ・都市拠点や地区拠点間の公共交通の維持に努め、買物や通院などの日常生活に必要な移動を支援します。

【その他都市施設】

- ・市街地内の商店街や通学路については、安全で快適な歩行者空間の確保に努めます。
- ・都市拠点内においては、生活道路や公園などの整備を充実し、良好な市街地環境を形成し、スポーツ・文化施設の充実を図ります。
- ・田園・集落ゾーンでは、コミュニティの維持に必要な機能の充実に努めます。
- ・クリーンセンターは、広域ごみ処理施設への中継施設として施設の維持に努めます。
- ・し尿処理施設や火葬場などの市民生活に必要な都市施設は、施設の維持・適正管理に努めます。

【景観形成】

- ・歴史文化交流拠点においては、国東の原風景である山岳景観、森林景観の保全を図るとともに、

歴史や文化を感じさせる景観の保全・修復・活用を図ります。

- 都市拠点では、ベンチ等の設置による休憩スポットの確保など、「まちの顔」に相応しい個性ある道路景観の創出を図ります。
- 世界農業遺産の特徴を有する旭日地区や富来地区は、暮らしに根付いた山あいの田園・集落景観、田園と一体となった山並み景観、水辺景観を保全します。

【防災まちづくり】

- 国見地域拠点から国東都市拠点までの区間に点在する集落は、土砂崩れなどによって国道が寸断された場合には孤立化する恐れがあるため、国東半島を周回する路線の機能強化や耐震性能の向上に努めます。
- 局所的な豪雨による土石流や河川の氾濫を防ぐため、河川の護岸整備やため池の決壊防止対策に努めます。
- 市街地内での内水被害を防ぐため、下水道施設の整備による雨水排水機能の強化を図ります。
- 災害時には、市役所を災害本部として、円滑な救命、復旧活動を行います。また、災害時の避難場所となる小中学校等においては、余裕教室等を活用し、必要に応じて救援物資等を保存する備蓄倉庫を配置します。
- 海岸部においては、高潮や津波などの発生に対応するため、避難施設の充実を図るとともに、円滑な避難活動に向けた訓練等に取り組めます。

《国東地域まちづくり方針図》



4-4 武蔵地域まちづくり構想

(1) 武蔵地域の課題

① 武蔵地域の特性

地域の概要	・市の中南部に位置し、面積は 4,183ha (41.83 km²)、人口は 5,068 人 (平成 27 年) で、それぞれ本市全体の 13%、18% ・地域西部は尾根筋と谷部から形成され、尾根筋に挟まれた河川の両岸に集落や農地が形成、地域東部は海岸線から内陸部にかけて平地で海岸部に市街地が形成 ・全域が都市計画区域外 (1,791ha (17.91 km²)) を対象として平成 27 年度に都市計画基礎調査を実施) ・地区公民館は、武蔵東、武蔵西の 2 地区 ・公共施設は、武蔵東地区に市役所総合支所、文化施設、中学校、武蔵東地区、武蔵西地区にそれぞれ小学校が立地するが、平成 32 年度には、3 校を統合した義務教育学校が現在の中学校に整備 ・武蔵総合支所から国道 213 号にかけては、様々な都市機能が集積し、地域住民の日常生活における交流活動の場が形成 ・武蔵川沿いには、商店街として栄えた時代の名残が見られるが、国道及び県道沿いでのロードサイド型の店舗形態に移行 ・地域南部の内陸は、県住宅供給公社による住宅開発によって新たな市街地が形成されており、商業用地や事業用地、市営住宅、戸建住宅地などの分譲が進む ・クヌギ林とため池がつなぐ国東半島宇佐地域の農林水産業システムが世界農業遺産に認定
人口構造	・平成 27 年の人口は 5,068 人で、平成 17 年からの 10 年間に 884 人 (15%) 減少 ・高齢化率は 34% で市の平均を 6 ポイント下回る
産業構造	・地域で働く従業者は 2,432 人で、第三次産業が 50% を占める ・第二次産業が 35% を占め、製造業の従業員数が多い ・地区別には、武蔵東地区に第二次、第三次産業の従業者が集積 ・田園・集落地域、森林・里山地域が占める武蔵西地区は、第一次産業が大半を占める
土地利用	・地域の 63% を森林が占め、農地 26%、宅地、その他等は 11% ・海岸線に近い武蔵東地区は森林と農地がほぼ同じ割合を占め、宅地、その他等が 20% を占める ・大半が丘陵地の武蔵西では森林が 81%、農地が 15% で宅地、その他等は 4%
道路・交通	・地域東部の海岸線に沿って国道 213 号と県道国東安岐線が南北に連絡 ・海岸線と内陸部、森林・里山ゾーンを結ぶ幹線として県道両子山武蔵線が連絡 ・市道オレンジロードが、国道に平行して内陸部を連絡 ・バス交通は、国東バスターミナルと杵築・別府・大分間を繋ぐ路線バスが片道 17 本/日で運行 ・海岸部には、大分空港があり、年間 180 万人以上 (一日平均約 5 千人) が利用 ・地域内のバスは、国道、県道を中心に路線バスが運行され、このほか市で海岸線の市街地と路線バス運行のない集落地を結ぶコミュニティバス・タクシーを運行

総合計画における位置づけ	【賑わいのゾーン（大分空港周辺地域）】 大分空港周辺については、その立地条件から、関係機関との連携のもと、本市の都市的な魅力を生み出す拠点へと誘導して、新しい賑わいのまちづくりを行政、企業、市民が協働して検討・推進する必要があります。 【企業・起業ゾーン】 市内における企業誘致や起業の場となる活力ある集積ゾーンで、従来の「テクノポリス」ゾーンと重なる地域となります。現在の労働力人口の推移等から大企業の誘致は厳しい環境にありますが、先端産業の誘致による集積化によって本市の雇用政策にとっては、この地域は重要なゾーンとなっています。 「空港道路」の無料化により杵築市や日出町からのアクセスが改善されていますので、公共施設の利活用によるインキュベーション（自治体等による育成施策：起業等）施設の整備等を検討・推進することで新産業や起業の新たな集積地としての可能性が出て来ています。 【第一次産業を中心にした悠久の歴史ゾーン】 本市の多くを占める内陸部の農村地域は、自然や文化を享受しながら生活している地域で、悠久の歴史や文化が引き継がれています。 まちづくり協議会やNPO 法人との協働によって移住・定住者が多い地域であり、「グリーンツーリズム（農家民泊）」にも積極的に取組み、都市との交流事業が盛んに行われています。 今後は、社会福祉政策や第一次産業政策、移住・定住政策と連携して、自然豊かな国東の文化や景観を未来へつなぐ地域としての振興を図る必要があります。 さらに、「第一次産業関連産業」、「コンテンツ産業」、「クリエイティブ産業」、「学校法人」、「個人のアーティスト」等の誘致を積極的に推進する地域とする必要があります。
--------------	---

②武蔵地域のまちづくりの課題

【新たな産業の立地誘導】

- 国道 213 号と県道国東安岐線の沿道を中心とした新たな産業の立地の誘導
- 産業立地や市街地形成に向けた適正な開発規制と計画的な土地利用の誘導

【利用しやすい地域拠点、地区拠点の形成】

- 五館通りを中心とした生活サービス機能や従業者の利便性を高める機能の誘導による賑わいの創出
- 武蔵西地区における日常的な地域サービス機能の維持・確保

【新たな住宅市街地の形成】

- 地域東部の交通利便性と優れた居住性能を活かした新たな住宅市街地の形成

【広域連携・拠点間連携の強化】

- 広域都市間及び拠点間の連携強化
- 骨格道路網の形成

【田園・集落の生活環境の維持】

- 地域コミュニティの維持
- 公共交通の維持

【農林漁業の活性化】

- 地域特性を活かした農林漁業の活性化
- 世界農業遺産の生産システムの保全と学習機会の確保

【災害からの安全性の確保】

- 土砂災害、河川の浸水、津波等の災害からの安全性の確保

(2) 武蔵地域のまちづくり方針

① 目指すべき地域の姿

交通利便性を活かした都市の活力と、自然と産業が融合する

落ち着いたある田園居住地域を目指す

② まちづくりの基本目標

○ 利便性の高い安全で快適な市街地づくり

- ・ 地域拠点における生活サービス機能の充実と賑わいの創出
- ・ 日常の生活利便性に優れ、安全で快適に暮らせる居住地としての市街地整備

○ 空港を活かした新たな産業誘致

- ・ 大分空港周辺の交通利便性を活かし、新しい産業誘致に向けた都市的土地利用への計画的な誘導

○ 持続可能な暮らしを支える地域づくり

- ・ 武蔵地域拠点における安全で良質な市街地環境の実現
- ・ 武蔵西地区の地区拠点における生活サービス機能、コミュニティ支援機能の充実
- ・ 田園・集落ゾーンにあっては、定住性や集落維持を考慮した生活環境の実現

○ 誇りある産業活動が営まれる地域づくり

- ・ 世界農業遺産に指定された農林水産業システムをシンボルとした生産性の高い農林業の実現
- ・ 安定した漁業生産の確保と漁村集落の維持

○ 災害に強い地域づくり

- ・ 土砂崩れ、土石流や河川の氾濫、高潮、津波等の地域ごとの災害特性に対する防災性の向上

③ まちづくりの方針

【拠点形成・土地利用】

- ・ 大分空港周辺の武蔵総合支所から安岐総合支所にかけての地域は、国東市街地との一体的な経済圏域を有し、一体の都市活動を営む地域であるため、都市地域への再編を行い、都市の健全な発展を導くための対策を進めます。
- ・ 都市拠点と大分空港周辺を結ぶ空港周辺産業拠点では、適正な産業の立地誘導を図るため、工業団地等の整備推進を図るとともに、宿泊機能の増進を図ります。
- ・ 武蔵総合支所周辺は、地域住民の生活サービスの利便性を確保するため、公共施設やサービス機能の維持及び公共交通の確保に努めます。
- ・ 武蔵総合支所から国道 213 号までのエリアについては、市街地開発事業等の実施を図ることで、良好な市街地の創出を図ります。
- ・ 小城展望公園は、市民の生活に身近な観光・レクリエーション拠点としての機能充実と眺望確保

を図ります。

- ・武蔵西地区の地区拠点、集落の維持を図るため、産業振興や定住促進、公共交通の確保に努めます。

【産業振興】

- ・商業においては、支所周辺への商業機能の集積によって、地域住民が日常の買物をできる小売・飲食の発展を目指すとともに、国道 213 号沿道におけるサービス店等の立地を推進します。
- ・工業に関しては、大分空港の広域物流の立地ポテンシャルを活かし、空港周辺への企業誘致による工業集積を図ります。
- ・世界農業遺産や海岸部の良好な自然資源や景観要素を活かし、公園や視点場、沿岸道路の整備によって新たな観光資源の創出を図ります。
- ・農林水産業は、農林水産物のブランド化や 6 次産業化への発展を推進します。

【交通施設】

- ・大分空港周辺の交通結節機能を強化するための施設の充実を図ります。
- ・地域住民の日常的な生活交通を確保するため、国東都市拠点や安岐地域拠点、大分空港との公共交通の連携を図ります。
- ・武蔵総合支所周辺などの既に市街地が形成されている地区では、市街地環境の改善を図るため、地区内道路の整備を推進します。
- ・既存のサイクリングロードなどを活用し、国東半島を周回できる安全で快適なサイクリング環境を整え、サイクリングを通じた地域振興とシーニックバイウェイの推進を図ります。
- ・地域拠点や地区拠点間の公共交通の維持に努め、買物や通院などの日常生活に必要な移動を支援します。

【その他都市施設】

- ・市街地内の商店街や通学路については、安全で快適な歩行者空間の確保に努めます。
- ・地域拠点内においては、生活道路や公園などの整備を充実し、良好な市街地環境を形成します。
- ・海岸部の良好な自然資源や景観要素を活かした公園や視点場、沿岸道路の整備に努めます。
- ・田園・集落ゾーンでは、コミュニティの維持に必要な機能の充実に努めます。

【景観形成】

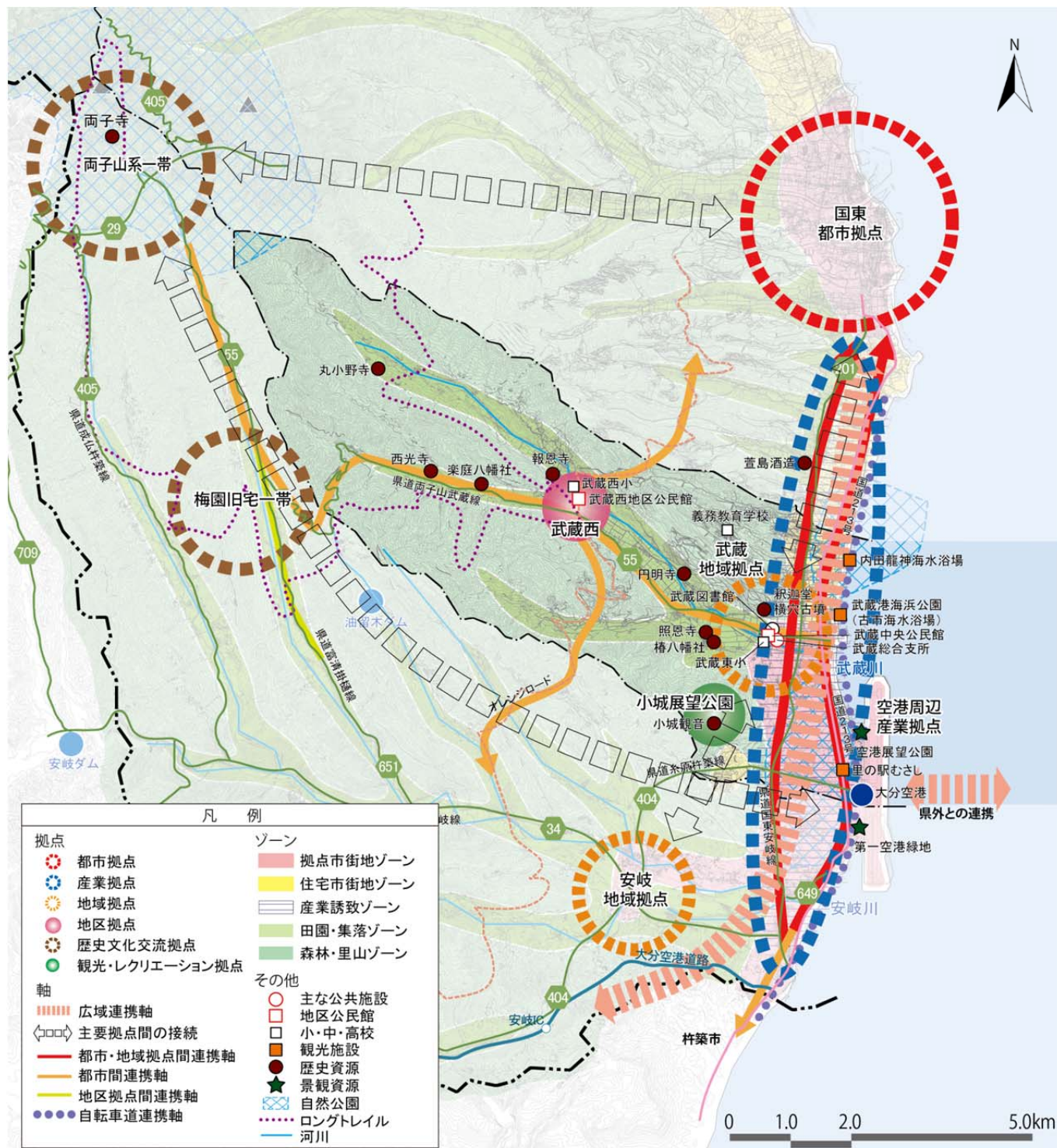
- ・歴史文化交流拠点においては、国東の原風景である山岳景観、森林景観の保全を図るとともに、歴史や文化を感じさせる景観の保全・修復・活用を図ります。
- ・大分空港周辺については、海・山・空の眺望景観の保全を図るとともに、玄関口に相応しいイメージづくりや風格のある景観の創出を図ります。また、大分空港に隣接する展望公園等の利用促進を図るため、施設の維持・充実に努めます。

【防災まちづくり】

- ・局所的な豪雨による土石流や河川の氾濫を防ぐため、河川の護岸整備やため池の決壊防止対策に努めます。

- ・市街地内での内水被害を防ぐため、雨水排水機能の強化を図ります。
- ・災害時の避難場所となる小中学校等においては、余裕教室等を活用し、必要に応じて救援物資等を保存する備蓄倉庫を配置します。特に、建設予定の義務教育学校は、地域の重要な避難場所として備蓄倉庫の設置を行います。
- ・海岸部においては、高潮や津波などの発生に対応するため、避難施設の充実を図るとともに、円滑な避難活動に向けた訓練等に取り組めます。

《武蔵地域まちづくり方針図》



4-5 安岐地域まちづくり構想

(1) 安岐地域の課題

① 安岐地域の特性

地域の概要	- 市の南部に位置し、面積は 9,107ha (91.07 k m²)、人口は 8,562 人 (平成 27 年) でそれぞれ市全体の 29%、30% - 両子山系から尾根筋が放射状に伸び、尾根筋に挟まれた河川の両岸に集落や農地が形成 - 海岸部にまとまった平地が広がり、農地、集落地が点在し、安岐総合支所周辺に市街地が形成 - 全域が都市計画区域外 (1,791ha (17.91 k m²)) を対象として平成 27 年度に都市計画基礎調査を実施) - 地区公民館は、西武蔵、朝来、西安岐、安岐、南安岐の 5 地区 - 公共施設は、西安岐地区に市役所総合支所、小・中学校、安岐地区に小学校が立地。現在、総合支所の隣接地に文化施設を整備予定。 - 安岐総合支所周辺や海岸部には、まとまった市街地が形成されており、一定の都市機能の集積と工場などの産業施設が数多く立地 - 地域西北部は、大半を山林が占め、茶業や七島蘭、果物などの農林業が盛ん - 両子寺や梅園旧宅などの多くの観光客が訪れる歴史資源を有し、谷筋の田園風景や棚田などの国東市の原風景が多く残る - 地域北部の内陸は、県住宅供給公社による住宅開発によって新たな市街地が形成されており、商業用地や事業用地、市営住宅、戸建住宅地などの分譲が進む - クヌギ林とため池がつなぐ国東半島宇佐地域の農林水産業システムが世界農業遺産に認定
人口構造	- 平成 27 年の人口は、8,562 人で、平成 17 年からの 10 年間に 1,412 人 (14%) 減少 - 高齢化率は 35% で、市の平均を 5% 下回る
産業構造	- 地域で働く従業者は 5,906 人で、4 地域で最も多い - 第二次産業が 48% で第三次産業の 41% を上回る - 従業者数の概ね 3 分の 2 が安岐地区に集中し、安岐地区では製造業のほか生活サービス、商業・業務などの従業者が多い - 西安岐、南安岐地区も比較的平地が多いことや交通利便性が高いことで、第三次産業を中心に従業者が多い
土地利用	- 森林が 63%、農地が 28%、宅地、その他等は 10% 弱 - 土地利用類型としては、「空港や大規模工場、新規住宅地などが立地し、宅地割合が 35% に達する安岐地区」、「内陸部に位置し、河川両岸に農地が広がり、農地割合が 40% を占める西安岐地区・南安岐地区」、「森林が主体の西武蔵地区・朝来地区」の 3 つに分類できる
道路・交通	- 地域南部に大分空港と大分別府方面を結ぶ大分空港道路 (自動車専用道路) が連絡 - 地域東部の海岸線に沿って国道 213 号と県道国東安岐線が南北に連絡 - 海岸線と内陸部、森林・里山ゾーンを結ぶ幹線として県道豊後高田安岐線、県道糸原杵築線、県道成仏杵築線、県道富清掛樋線が連絡 - 市道オレンジロードが、国道に平行して内陸部を連絡 - バス交通は、国東バスターミナルと大分空港・杵築・別府・大分間を繋ぐ路線バスが片道 17 本/日で運行 - 海岸部には、大分空港があり、年間 180 万人以上 (一日平均約 5 千人) が利用 - 地域内のバスは、国道、県道を中心に路線バスが運行され、このほか市で海岸線の市街地と路線バス運行のない集落地を結ぶコミュニティバス・タクシーを運行

総合計画における位置づけ	【賑わいのゾーン（大分空港周辺地域）】 大分空港周辺については、その立地条件から、関係機関との連携のもと、本市の都市的な魅力を生み出す拠点へと誘導して、新しい賑わいのまちづくりを行政、企業、市民が協働して検討・推進する必要があります。 【企業・起業ゾーン】 市内における企業誘致や起業の場となる活力ある集積ゾーンで、従来の「テクノポリス」ゾーンと重なる地域です。現在の労働力人口の推移等から大企業の誘致は厳しい環境にありますが、先端産業の誘致による集積化によって本市の雇用政策にとっては重要なゾーンとなっています。 「空港道路」の無料化により杵築市や日出町からのアクセスが改善されており、公共施設の利活用によるインキュベーション（自治体等による育成施策：起業等）施設の整備等を検討・推進することで新産業や起業の新たな集積地としての可能性が出て来ています。 【第一次産業を中心にした悠久の歴史ゾーン】 本市の多くを占める内陸部の農村地域は、自然や文化を享受しながら生活している地域で、悠久の歴史や文化が引き継がれています。 まちづくり協議会やNPO 法人との協働によって移住・定住者が多い地域であり、「グリーンツーリズム（農家民泊）」にも積極的に取り組み、都市との交流事業が盛んに行われています。 今後は、社会福祉政策や第一次産業政策、移住・定住政策と連携して、自然豊かな国東の文化や景観を未来へつなぐ地域としての振興を図る必要があります。 さらに、「第一次産業関連産業」、「コンテンツ産業」、「クリエイティブ産業」、「学校法人」、「個人のアーティスト」等の誘致を積極的に推進する地域とする必要があります。
--------------	---

②安岐地域のまちづくりの課題

【良好な都市資源の活用と産業の立地誘導】

- 大分空港、大分空港道路等の交通環境や既存の工場集積、その他の都市機能などの良好な都市資源を活用した新たな市街地の形成と産業の立地誘導
- 産業立地や市街地形成に向けた適正な開発規制と計画的な土地利用の誘導

【利用しやすい地域拠点、地区拠点の形成】

- 安岐総合支所周辺等における計画的な都市機能の誘導
- 西武蔵、朝来地区における日常的な地域サービス機能の維持・確保

【地域生活環境の質の向上】

- 地域の東部における定住性を考慮した良好な居住環境の形成
- 西武蔵、朝来地区における集落環境の質の向上

【広域連携・拠点間連携の強化】

- 広域都市間及び拠点間の連携強化
- 骨格道路網の形成

【田園・集落の生活環境の維持】

- 地域コミュニティの維持
- 公共交通の維持

【多様な自然、歴史資源を活かした地域形成】

- 両子寺や梅園の里など多様な資源の保全、活用による個性ある地域の形成

【農林漁業の活性化】

- 地域特性を活かした農林漁業の活性化
- 世界農業遺産の生産システムの保全と学習機会の確保

【災害からの安全性の確保】

- 土砂災害、河川の浸水、津波等の災害からの安全性の確保

(2) 安岐地域のまちづくり方針

① 目指すべき地域の姿

産業が集積し、両子山の豊富な自然と文化に育まれ、
ゆったりとした生活が営める地域を目指す

② まちづくりの基本目標

○ 産業が集積する活気のある市街地づくり

- ・ 優れた立地条件を活かした様々な産業の立地誘導による産業拠点の形成

○ 歴史・文化・自然を活かした拠点づくり

- ・ 両子山一帯や梅園旧宅一帯を歴史文化交流拠点として保全・活用を促進
- ・ 資源の保全とアクセス道路整備、来訪者への拠点整備

○ 持続可能な暮らしを支える地域づくり

- ・ 大分空港周辺地域の安全で良質な市街地環境の創出による居住の推進
- ・ 西武蔵地区や朝来地区の地区拠点における生活サービス機能、コミュニティ支援機能の充実
- ・ 田園・集落ゾーンにあっては、定住性や集落維持を考慮した生活環境の実現

○ 誇りある産業活動が営まれる地域づくり

- ・ 世界農業遺産に指定された農林水産業システムをシンボルとした生産性の高い農林業の実現
- ・ 安定した漁業生産の確保と漁村集落の維持

○ 災害に強い地域づくり

- ・ 土砂崩れ、土石流や河川の氾濫、高潮、津波等の地域ごとの災害特性に対する防災性の向上

(5) まちづくりの方針

【拠点形成・土地利用】

- ・ 大分空港周辺の武蔵総合支所から安岐総合支所にかけての地域は、国東市街地との一体的な経済圏域を有し、一体の都市活動を営む地域であるため、都市地域への再編を行い、都市の健全な発展を導くための対策を進めます。
- ・ 都市拠点と大分空港周辺を結ぶ空港周辺産業拠点では、適正な産業の立地誘導を図るため、工業団地等の整備推進を図ります。
- ・ 安岐総合支所周辺は、地域住民の生活サービスの利便性を確保するため、公共施設やサービス機能の維持及び公共交通の確保に努めます。
- ・ 国道213号沿いは、自然公園等との調和を図りながら、沿道サービス店舗等の立地を推進します。
- ・ 安岐ダム一帯は、市民の生活に身近な観光・レクリエーション拠点としての機能充実を図ります。
- ・ 西武蔵地区や朝来地区の地区拠点は、集落の維持を図るため、定住促進、公共交通の確保に努めます。

【産業振興】

- ・商業においては、総合支所周辺への商業機能の集積によって、地域住民が日常の買物をできる小売・飲食の発展を目指すとともに、国道213号沿道におけるサービス店等の立地を推進します。
- ・観光面では、多くの観光客が訪れる両子山系一帯や梅園旧宅一帯について、歴史資源の維持・充実を図りながら、アクセス性の向上や駐車場の整備などを図り、都市拠点や地域拠点との連携強化によって観光の回遊性を高め、滞在時間の向上や宿泊客の増加を推進します。
- ・工業に関しては、大分空港の広域物流の立地ポテンシャルを活かし、空港周辺への企業誘致による工業集積を図ります。
- ・世界農業遺産や海岸部の良好な自然資源や景観要素を活かし、公園や視点場、沿岸道路の整備によって新たな観光資源の創出を図ります。
- ・農林水産業は、七島蘭などの農産加工等の産業振興を図りながら、農産物のブランド化や6次産業化への発展を推進します。

【交通施設】

- ・大分空港周辺の交通結節機能を強化するための施設の充実を図ります。
- ・地域住民の日常的生活交通を確保するため、国東都市拠点や安岐地域拠点、大分空港とのバス交通の連携を図ります。
- ・安岐総合支所周辺などの既に市街地が形成されている地区では、市街地環境の改善を図るため、地区内道路の整備を推進します。
- ・既存のサイクリングロードなどを活用し、国東半島を周回できる安全で快適なサイクリング環境を整え、サイクリングを通じた地域振興とシーニックバイウェイの推進を図ります。
- ・地域拠点や地区拠点間の公共交通の維持に努め、買物や通院などの日常生活に必要な移動を支援します。

【その他都市施設】

- ・市街地内の商店街や通学路については、安全で快適な歩行者空間の確保に努めます。
- ・地域拠点内においては、生活道路や公園などの整備を充実し、良好な市街地環境を形成します。
- ・海岸部の良好な自然資源や景観要素を活かした公園や視点場、沿岸道路の整備に努めます。
- ・田園・集落ゾーンでは、コミュニティの維持に必要な機能の充実に努めます。

【景観形成】

- ・歴史文化交流拠点においては、国東の原風景である山岳景観、森林景観の保全を図るとともに、歴史や文化を感じさせる景観の保全・修復・活用を図ります。
- ・世界農業遺産の特徴を有する密乗院地区は、暮らしに根付いた山あいの棚田・集落景観、棚田と一体となった山並み景観を保全します。
- ・大分空港周辺については、海・山・空の眺望景観の保全を図るとともに、玄関口に相応しいイメージづくりや風格のある景観の創出を図ります。また、大分空港に隣接する展望公園等の利用促進を図るため、施設の維持・充実に努めます。

- 局所的な豪雨による土石流や河川の氾濫を防ぐため、河川の護岸整備やため池の決壊防止対策に努めます。
- 市街地内での内水被害を防ぐため、雨水排水機能の強化を図ります。
- 災害時の避難場所となる小中学校等においては、余裕教室等を活用し、必要に応じて救援物資等を保存する備蓄倉庫を配置します。
- 海岸部においては、高潮や津波などの発生に対応するため、避難施設の充実を図るとともに、円滑な避難活動に向けた訓練等に取り組めます。

凡 例

拠点	ゾーン
都市拠点	拠点市街地ゾーン
産業拠点	住宅市街地ゾーン
地域拠点	産業誘致ゾーン
地区拠点	田園・集落ゾーン
歴史文化交流拠点	森林・里山ゾーン
観光・レクリエーション拠点	

軸

- 広域連携軸
- 主要拠点間の接続
- 都市・地域拠点間連携軸
- 都市間連携軸
- 地区拠点間連携軸
- 自転車道連携軸

その他

- 主な公共施設
- 地区公民館
- 小・中・高校
- 観光施設
- 歴史資源
- 景観資源
- 自然公園
- ロングトレイル
- 河川

空港周辺
産業拠点

大分空港

県外との連携

安岐川

安岐市

大分市

大分市との連携

0 1.0 2.0 5.0km